



写真：(一財)全日本ろうあ連盟提供

デフテニス

デフテニスは、コートやボール、ラケット、試合のルールは通常のテニスと全く同じです。異なる点といえば、デフテニスプレーヤーは、審判コール、相手の打球やバウンドした際の音、自分の打球音、そして環境音（応援、声援）等々が全く聞こえない無音の世界でテニスする事です。

試合のジャッジは、手話コールで手や指でカウントを表現し、初心者でも簡単に覚えられるものです。例えば、インは両手揃えて下に向ける、アウト・フォルトは腕を上の人差し指を上に向ける、ラブはグー、フィフティーンは指1本、サーティは指2本、フォーティは指3本、デュースは手のひらを下に両手を合わせる、アドバンテージはグーで親指を立てる等。意外と簡単でカウントが相手に伝われば、テニスができますよね。

さて、2023年から全豪オープンテニスからデフテニスが開催されています。聴覚障がいがあるテニスプレーヤー達へブランドスラムの扉が開き、活躍する場が世界に広がる事は素晴らしいですね。

デフリンピックのデフテニス会場は、東京オリンピックの会場となった有明テニスの森です。皆で、デフテニスプレーヤーに熱い応援を送りましょう。



デフ卓球

デフ卓球は、補聴器や人工内耳を外してプレーしますが、コート・用具・ルール・審判の役割などはすべて、一般の卓球とまったく同じ。相手の打点や打球の回転量を打球音で判断できないので、相手の動作・ボールの軌道を最後までよく見る必要があります。視線や首の動きがブレやすくなります。そのため、ラリー（打ち合い）のスピードは健聴者トップ選手には及ばないかもしれませんが、それでも一般の卓球の試合とは区別がつかない速さです。そんな中で、トップ選手は視覚だけでなくラケットにボールが当たる感覚までも研ぎ澄まして、自分や相手の打球音に頼らずに自分自身でリズムをつかってプレーしています。選手たちの視線や動作に注目！



デフバスケットボール

デフバスケットボールのルールは通常のバスケットボールルールと同じです。試合をするにあたってコートの対角にフラッグマンが配置され審判の笛が鳴った際にフラッグを上げ選手に知らせます。元々審判は反則などをディレクションと呼ばれるサインでテーブルオフィシャルや選手、観客に知らせるので問題はありません。

しかし、選手は聴こえない聴こえづらい中、パス、ドリブル、シュートやディフェンスをするために手話でコミュニケーションをはかったり最近ではデフの可能性を追求するために作戦をサインにしたサインバスケットボールでオフェンスやディフェンスに活かしています。

デフバスケットボールには健聴者も参加するミニリーグがあり技術の向上を目指しています。



デフバレーボール

デフバレーボールは、6人制で行われ、コートや用具、競技形式など、一般のバレーボールのルールとの違いはありません。

- ・プレー中は、ボールを弾く音、声によるプレーの連携、ベンチからの監督の指示の声など、コート上でのすべての音が聞こえません。

そんな中で、勝利のカギとなるのはチームワーク。選手や監督は手話やアイコンタクト、ボディランゲージなどを使ってコミュニケーションを図ります。

- ・審判は、選手が笛の音やボールを弾く音など聞こえない、聞こえにくい状態でプレーするため、ハンドサインをしたり、ネットを揺らして気づいてもらうなど、おもに視覚から必要な情報が得られるように工夫しています。

【デフリンピックにおける過去の成績】

2013年ソフィア大会(ブルガリア) 女子 銀メダル

2017年サムスン大会(トルコ) 女子 金メダル

デフバドミントン

デフバドミントンのルールは通常のバドミントンと同じです。カテゴリーはシングルス、ダブルスなど通常と変わりません。しかし、審判のコールが聞こえない聞こえづらいため手話や筆談を用います。また、選手たちが試合に集中できるよう得点板を多く配置するなどの配慮をしています。

試合ではラケットでシャトルを打ち返す音やリズム、スマッシュやカットなどが掴みづらく、特にダブルスではどちらの選手が打つか声でのコミュニケーションができないため試合前に作戦をたて練習しています。

デフ大会としては、日本ろう者バドミントン選手権大会などがあります。健聴者はデフ大会には出場できませんが聴覚障がいを持った方は健聴者大会に出場できるそうです。



デフスポーツの応援のしかた

手話の拍手から生まれる応援



「サインエール」は東京2025デフリンピックに向けて、ろう・難聴のクリエイターとデフアスリートが共同開発した“目で届ける応援”です。日本手話の拍手を原型に、腕を広げて支える「GO! (行け!)」、拳を握って鼓舞する「You can do it! (大丈夫 勝つ!)」、腕をクロスして掲げる「Grab the Medal! (メダルをつかめ!)」の3基本動作を設定し、観客全員がタイミングを合わせて視覚的にメッセージを送ります。光や応援団の合図で一斉に繰り出される動きはスタジアムをリズムと色で満た

し、声援が届きにくかったデフ競技に新たな一体感を創出。聴者もろう者も同じジェスチャーでつながる包摂的な応援文化として、競技ごとのバリエーションへ拡充が進められています。応援を覚えて、デフリンピックを盛り上げましょう!

